

鷺浦港

鷺浦の素晴らしい天然港は、荒々しい風と激しい波に揉まれる海岸上の避難所のようなもので、数千年もの間住人たちを引き付けてきた。口が狭く丘に取り囲まれた深い入り江は風から守ってくれ、護衛するかのように港の入口にある柏島が自然の堤防となっている。

江戸中期（1603 年 - 1867 年）に日本は栄え、交易船が京都や大阪から日本海を航海し、本州の北海岸に沿う寄航港に商売と富を運んでいた。鷺浦は繁栄し、卸売業者、宿泊施設が揃い、水夫たちが安全に錨を港に降ろし、風向きが好ましくなるまで待つことができる場所であった。町の西側の水際に並ぶ岩に彫られた係留点が今もはっきりと見える。そのいくつかは支線の接続点を形成するために、くり抜かれている。

明治時代（1868 年 - 1912 年）と大正時代（1912 年 - 1926 年）の間に、鷺浦には大阪の商業船が定期的に寄港していた。東北の米や北海道のニシンや昆布を運ぶ船は目覚ましい商業化をもたらした。町が最も栄えていた 1888 年頃には、船会社は一年あたり 100 隻を超える船を管理していたと考えられる。

現在、鷺浦の住民の主要産業は漁業であり、鷺浦港は地元の漁業にとって今も重要な場所である。島根半島の海は良質なハマチ、イサキ、サワラ、イカ、カレイを産出している。一部の地元の漁師は岩だらけの地形の海岸線を案内するボートツアーも提供している。幻想的な形へと姿を変えた海蝕洞、小さな洞穴、島々がゴツゴツした崖の下の海岸線に点在し、その多くは船でのみ行くことができる、息を呑むように美しい場所だ。11 月から 7 月の間にここを訪れれば、港に群れるウミネコたちを見ることができる。毎年繁殖時期になると島根へやって来るウミネコは、猫の鳴き声のような、その珍しい鳴き声から見分けることができる。これが「ウミネコ（海の猫）」と呼ばれる所以だ。